

文部省選定
教育映画祭
優秀作品賞

A



推薦のことば

文部省体育局学校保健教育課教科調査官
石川哲也

「教育こそがワクチン」という言葉があるように、エイズを予防しエイズに伴う偏見や差別を払拭するためには、ひとりひとりがエイズについての正しい知識をもち、行動することが大切です。しかも、感染を防ぐためには若いうちから、学校や地域においてエイズ教育を推進することが極めて重要です。

この映画は、エイズ教育の一層の充実を図るため、製作されました。内容は、エイズという病気そのものとHIVの感染予防を理解するためのもの、偏見・差別をなくして患者・感染者と共に生きていこうとする態度を育てるためのもので構成され、優れた作品となっています。この映画が、広く一般の方々に利用されることを願っています。

●監修・指導

文部省体育局学校健康教育課教科調査官 石川哲也
文部省体育局学校健康教育課専門員 北島智子
厚生省エイズサーベイランス委員 南谷幹夫
田能村教育問題研究所長 田能村祐麒
埼玉県立熊谷高等学校教諭 大野勝生

●配給

正しい理解と行動

推薦のことば

厚生省エイズサーベイランス委員
医学博士 南谷幹夫

最近、わが国でもエイズ患者や感染者が急増しています。2年連続で前年の2倍以上の増加は、現在エイズが多発している国々の流行初期と似ています。しかも感染者は若い人に多く、20歳代が過半数を占めています。

もう誰にとっても、特に若い人々にとって、エイズは身近な病気となってきました。エイズの病原体であるHIVの感染経路は性的接触、血液媒介、母子関連ですが、実際には若い男女間の性的行為による直接の接触感染がもっとも多いのです。今や、ひとりひとりがエイズについて正しい知識をもつことが、エイズを防ぐ最良の手段であり、流行防止の近道と言えます。若いうちからエイズに対する正しい知識を身につけることは、感染予防ばかりでなく、感染者に対する誤解や偏見・差別をなくすためにも大切です。この映画は適切にエイズを把握しており、若い人ばかりでなく、広く一般の方々に役立つ教材としておすすめします。

企画・製作●(株) 桜映画社

協力●(財)日本視聴覚教育協会

規格●16ミリ・カラー・21分

販売価格●16ミリ/160,000円(消費税別)



●協力

千葉大学教育学部教授 武田 敏
岡山大学医学部教授 新居志郎
新見女子短期大学教授 宇野文夫

●撮影協力

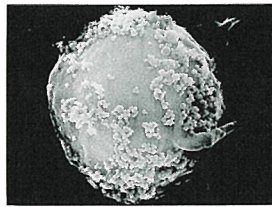
東京都立市ヶ谷商業高等学校
中央大学杉並高等学校
国立予防衛生研究所
財団法人 エイズ予防財団
ポプラ社
中外製薬株式会社

●製作スタッフ

製作・撮影＝村山和雄
脚本・演出＝花崎 哲
アニメーション＝河原三郎
岡田誠司
黒須和清
編集＝吉田栄子
加納宗子
音楽＝山崎 宏
録音＝福島音響
解説＝相川 浩

内容

- 1 プロローグ…「エイズに関心がありますか？」
- 2 エイズはどういう病気か？
- 3 エイズはどのように感染するのか？
- 4 どうしたら感染は防げるか？
- 5 差別と偏見をなくすために…正しい知識を身につけよう
- 6 エピローグ…感染者への理解、そして共に生きるために



最近、エイズに関しての様々な情報があふれていて、日本の若い人たちもそれぞれがいろいろなことを知っているように見える。しかし、まだエイズのことは、自分たちには縁のない、遠いところの話のように感じてはいないだろうか？

まず、エイズについて、正しい知識を持とう。



エイズという病気と、その原因となるHIVと感染経路等について、最新の情報をもとにした正しい知識を伝える。そして（特に性的接触による）感染を予防し差別や偏見をなくすために、ひとりひとりがどのような意識をもって行動すべきか、日常生活では感染しないなど、高校でのエイズ予防の授業を交えながら考えさせていく。



さらに、エイズ患者やHIV感染者を理解し、共に生きるためには、正しい知識から行動へつなげていくことが大切であることを教え、若い人たちが、この問題に積極的にとりこんでいる様子も紹介する。

上/HIVに感染したTリンパ球の電子顕微鏡写真
中/高校生によるエイズについてのパネル・ディスカッションの様子
下/一般市民によるエイズ・キャンペーン

●映画「AIDS-正しい理解と行動」の利用にあたって●

エイズを子どもたちに教えることの難しさがいわれています。しかし、他の国々同様、わが国でも、エイズの爆発的増加が危ぶまれている今日、若い世代にエイズについての正しい知識と認識を与えていくことは、エイズを予防しその蔓延を食い止めていく上で、最も重要な課題となっています。

この映画は、高校生を対象として、そうしたエイズ教育の基本を示す教材として作られたものです。

しかし、その利用の幅は、高校生にとどまりません。たとえば、地域保健の場で、エイズに対しての認識を深めるというだけでなく、親と子がエイズについて話し合う時に役立つ映画になると思います。

また、エイズを正しく理解するための講演会などの催しは、各地でさまざまな形をとって行われていますが、そうした講演会と組み合わせて、あるいは講演会の代わりに、映画を上映して利用していく方法もあります。

映画は、エイズについての科学的に正確な知識を持つための部分と、エイズについて社会的な認識を持つための部分のふたつの内容を盛り込んでいます。このふたつは、エイズ教育を考

えていく上で、決して別々にできないものです。「正しい理解と行動」という副題も、そうした性格とねらいを持っています。

この映画を、幅広い範囲で、効果的に利用していくことによって、エイズ予防の第一歩といわれる正しい理解と認識を身につけていくことができると思います。

●この映画は、次のような利用の場と方法があります。

- 高等学校・高等専門学校・各種専門学校で
→保健体育、特別活動のエイズについての授業の中で
- 保健所・地域保健の集まりで
→エイズについての啓発、予防を呼びかける集まりや講演会
→親子で見る地域映画会など
- 中学校・高等学校のPTAの集まりで
→生徒にエイズについてどう教え、どう話していくかについての話し合いなど
- 中学校・高等学校の教師の集まりで
- 教員養成課程を持つ大学の講義で
→エイズ教育についての研修の中で